

広報 **この**

11

2004
NO.610



特集 **鴛鴦** オシドリ

10年前からオシドリグループと交流を続ける東京杉並第二小学校の卒業生から贈られたオシドリ人形



一斉に飛び立つオシドリ

特集 **鴛鴦** オシドリ



INDEX	
04	飛来の始まり
06	オシドリの里
08	生態を知る
10	支える人々
14	ドングリ交流
18	町民ミュージカル おしどりの物語
20	小泉八雲
22	そしてこれから

晩秋から春先にかけて、鳥取県日野町には多くのオシドリが飛来します。
 始まりは今から19年前。ある人が、えさとなるドングリを拾い集め、まき始めたことがきっかけです。昨年は900羽以上が飛来し、来観者数は1万7500人を超えました。
 まちが誇る観光スポットのオシドリ観察。その魅力、支える人たちを紹介します。

飛来の始まり

日野町に飛来するオシドリ。その数は900羽を超えます。鳥たちは、この地でのんびりと羽を休め、まかれたドングリをついばむ。始まりは19年前、ある人が日野川にえさをまき始めたのがきっかけ。その人は、オシドリおじさん「こと、池岡幸三さん（舟場）。すべてはそこから始まりました。

19年前から続くえさまき地道な努力が実る

まちの中央を流れる日野川に、今年もたくさんのおシドリたちがやって来ました。

オシドリ飛来の始まりは、今から19年前にさかのぼります。え付けを始めたのは「オシドリおじさん」こと、池岡幸三さん（舟場）です。

当時、池岡さんは運送会社に勤務。材木を運ぶ途中に通る岡山県勝山町で、毎年同じ川の淵にやって来るオシドリを見かけていました。

「どうして同じ場所に」と疑問に思っていたある日、水中に沈んでいるドングリを潜って食べるオシドリの姿を見つけ「日野川にもドングリ

をまいたら集まるのでは。たくさんいたオシドリを呼び戻したい。美しい鳥を多くの人に見せてあげることができれば」と、え付けを思い付きました。

近くの日野川でも見かけていたオシドリ。かつては町内にも多くのオシドリがいましたが、その飛来数は徐々に減っていました。

仕事を終えた後や休日になる度に、近くの神社や山でドングリを拾い集め、休むことなく水辺にまき続けました。えさをまく場所も何度も変え、今の場所に定着しました。

ドングリ集めも楽ではありませんでした。ひとりで拾える量は限度があり、バケツ1

杯のドングリを集めるのに3時間もかかったこと。懐中電灯を手に暗闇の中で、寒さに凍えながら探したこともありました。

重ねることに増え、昨年は900羽を超えました。池岡さんは「ひとりではやっていたが、今は多くの人を支えてくれる。オシドリが結ん

今はひとりじゃない
多くの人が支えてくれる。

始めたからにはやめられない。夜中に探すため周囲から変な目で見られたこと。えさが足りず、家の米を持ち出して怒られたこともあったと、苦労した日々を池岡さんは話します。

そうした数々の努力が実り、20羽程だったオシドリも年を

でくれた縁を大切にしたい」と今までを振り返ります。

毎年秋になるとオシドリが飛来し、観察小屋には全国各地から多くの人が訪れるようになりました。そこには今に至るまで、数々の苦労を乗り越えてきた池岡さんの姿があります。



オシドリの大好物「ドングリ」全国各地から送られてくる



美しいオシドリの姿
みんなに見せてあげたいー。
池岡幸三

「たくさん食べろよ」19年間、休むことなくドングリをまき続ける池岡さん